只見町ブナセンター
TEL 0241(72)8355

ツキノワグマの春～夏 （学名：*Ursus thibetanus japonicus*）

［ ネコ目 クマ科 ］

6月5日に考古館で目撃されたツキノワグマの足跡（赤丸）。
このクマは、あぜ道を通り奥の林に逃げていったと思われます。

4～6月にかけて只見町では、人里でのツキノワグマの目撃が相次いでいます。この時期にこれほどツキノワグマが目撃されることは只見町でも珍しく、不安に思われる方もいると思います。それでは、この時期にツキノワグマはどのような生活を送っているのでしょうか？

4月になり雪解けが始まるとクマたちは徐々に冬眠から覚め、山を歩き始めます。冬眠から覚める順番は、オス、子供をもたないメス、仔連れのメスの順と言われています。特に、仔連れのメスは子供を他のクマに殺されることを警戒して、冬眠穴から出る時期も遅く、その後も冬眠穴の付近にとどまります。冬眠から覚めたクマは、芽吹いた若葉や草本、この時期に咲くブナの花などを食べ始めます。開いたばかりの葉は柔らかいため、クマにとっても消化しやすく、葉が開くのが早いブナから開く順番に合わせて食べていきます。雪崩などで死んだシカなどの動物や地面に残っていた前年のドングリなどを食べるのもこの時期です。山全体の樹木の展葉が終わる5月末頃まで樹木の芽吹きや開花に合わせて食べられるものを食べていきます。6月頃になると食べ物のメニューに昆虫や木の実が加わり始めます。この頃からドングリが利用できる秋までは、クマにとっては食べ物が少ない時期らしく、栄養状態が低下し続けることが言われています。交尾期に入るのもこの時期で、親仔以外は普段独りで暮らしているクマにとって、他のクマと一緒にいる唯一の時期なのです。そして、夏が終われば、いよいよクマたちが待ちに待ったドングリの季節がやって来ます。

この春～夏の時期は、秋に比べツキノワグマの出没は少ない時期ですが、北東北ではこの時期にも出没のピークがあることが言われています。山形や秋田といった積雪が多い地域では、この時期の出没の回数と雪解けのタイミングが関係している可能性が指摘されています。また、春先には前年に落ちたドングリを食べることがあるため、前年のドングリの成り具合も出没の回数と関係がある可能性があります。今年の只見町における春の出没の増加も、この冬に雪が多かったことや前年にブナが不作であったことが関係しているのかもしれません。

企画展示
「只見町のブナの森　–ブナの生態から利用まで–」
日　時：6月27日(土)～9月27日(日)

ブナセンター講座
「気候変動によって雪国の森はどのように変わっていくのか？」
日　時：8月1日(土)

自然観察会
「夏のブナ林を歩く！」　日　時：8月2日(日)
森林生態学や生物多様性科学がご専門の中静透先生（東北大学）を招き、
“只見町のブナの森”講座と観察会を開催します。

※この広報紙は再生紙を使用しています
※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

■ 発行／只見町　〒968-0498 福島県南会津郡只見町大字只見字雨堤1039
■ 編集／総務課総務係　http://www.tadami.gr.jp/　☎0241(82)5210